様式2

都市再生整備計画　事後評価シート
追分地区

令和3年2月

北海道 勇払郡 安平町

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	安平町	地区名	追分地区			面積	441 ha
交付期間	平成27年度～令和2年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	906百万円	国費率	0.272		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	高次都市施設（観光交流センター（道の駅））、公園（柏が丘公園）、地域生活基盤施設（観光情報案内板）
	提案事業	地域創造支援事業（実施設計［道の駅（鉄道部分、特産品販売・軽食コーナー、外構、駐車場整備）、柏が丘公園（フェンス・監視カメラ）］、事業活用調査（事業効果分析事業）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	—		
	提案事業	—		
新たに追加した事業	基幹事業	—		
	提案事業	—		

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成27年度～令和2年度	—
	変　更	—	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	観光者の入り込み客数	人	424,376	H25	650,000	R2		846,384	○	あり なし	— —	道の駅での通年的な集客イベントの実施が奏功したほか、道の駅そのものが目的地化したことにより町外来訪者数が大きく増大し、従来の集客施設・イベントによる交流人口と比べ、大幅な拡大に寄与した。	—
指標2	柏が丘公園の年間利用人員	人	3,307	H25	10,000	R2		16,000	○	あり なし	— —	工事完了が令和2年度末になるため、公園の供用開始後の利用人員を推計した結果、目標を達成する見込みである。隣接する道の駅への来場者が公園施設に立ち寄るという波及効果と遊具や広場整備による集客効果のため、来場者の増加が見込まれる。	R3.4～R4.3
指標3													
指標4													

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	回遊効果（観光案内板設置施設の利用者数）	人	152,940	H25				175,958			道の駅の集客力・情報発信力と相俟って、町内で統一化されたデザインの観光情報案内板を整備したことにより、他の町内施設への来訪者数の増加につながり回遊効果が発現した。 ※観光案内板設置施設（道の駅等を除く）：鹿公園、ぬくもりの湯、安平町物産館、ときわ公園、鶴の湯温泉、まち・あいステーション ラビア、遠浅コミュニティセンター	—
その他の数値指標2												

4）定性的な効果発現状況

・道の駅整備後、通常の物販や休憩はもとより、イベントやキャンプに特化した展示・販売などの企画や情報提供、イベント開催により、地域外からの集客が増大し、町内の他施設への誘導による回遊性向上に寄与した。
・公園整備後、これまでの野球場利用者に加え、地域外からの遊具広場の利用者が増加し、通年での地域外からの集客への寄与が期待できる。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況	今後の対応方針等
モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
住民参加プロセス	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	
持続的なまちづくり体制の構築	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	

様式２－２　地区の概要

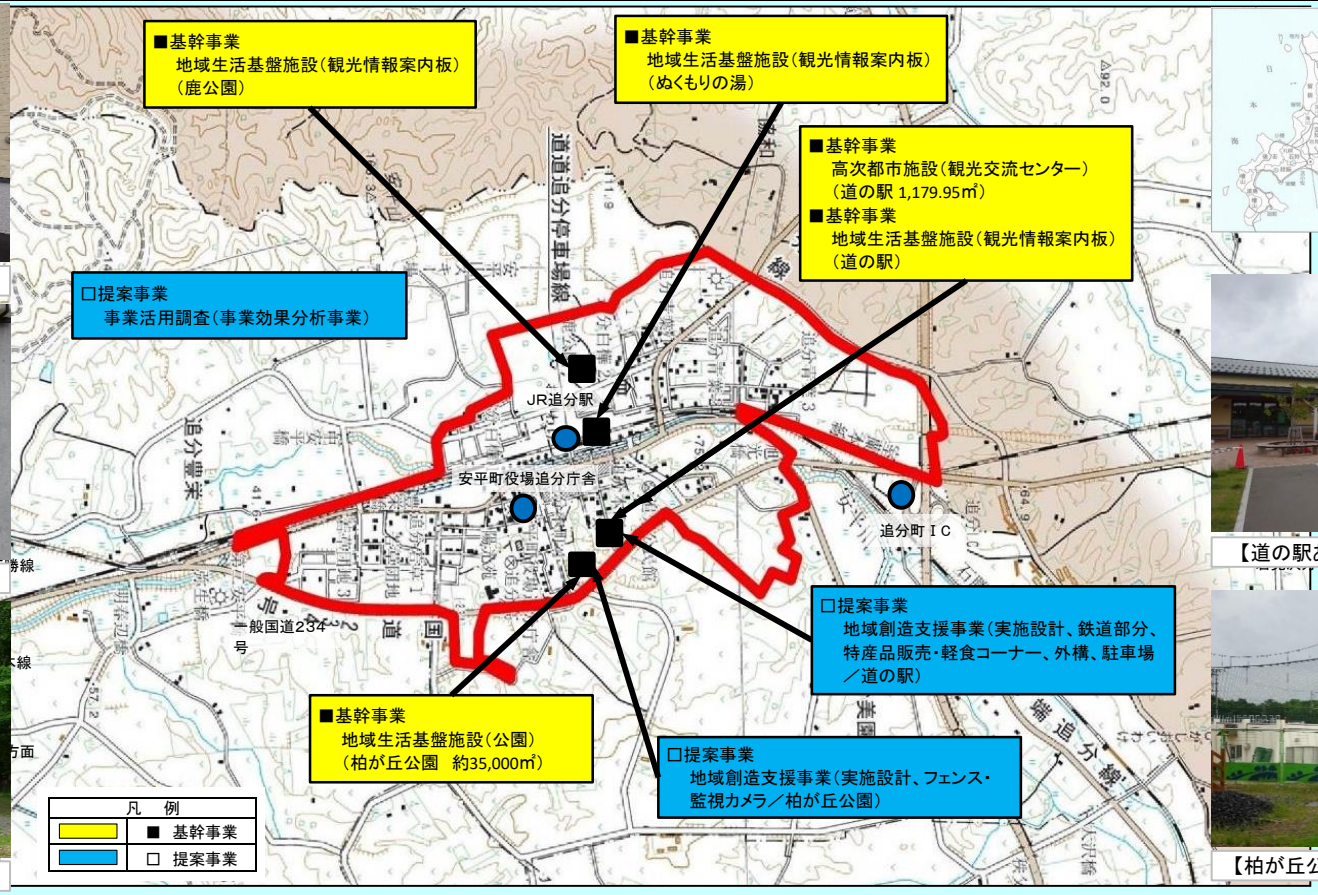
追分地区（北海道勇払郡安平町）都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標　北海道安平町の資源を活かした回遊観光・地域間交流推進を契機とする急激な人口減少に負けない地域力の醸成 目標１：「道の駅」を核とした新たな観光交流拠点・情報発信拠点の創出による交流人口の拡大を図る 目標２：柏が丘球場の周辺を人と人がふれあう憩いの場として整備し、道の駅と一体となった地域間交流の促進及び交流人口の拡大を図る	観光者の入り込み客数	単位：人	424,376	H25	650,000	R2	846,384	R2
	柏が丘公園の年間利用人員	単位：人	3,307	H25	10,000	R2	16,000	R2
	—	—	—	—	—	—		—
	—	—	—	—	—	—	—	—

【道の駅　観光案内板】

【ぬくもりの湯　観光案内板】

【鹿公園　観光案内板】



【道の駅あびらD51ステーション©】

【柏が丘公園（令和2年度末 完成）】

まちの課題の変化	・交流人口の拡大が大きな課題であったが、一定時間滞在できる施設（公園・道の駅）の整備により地域外からの集客が増え、それに呼応するように周辺に魅力ある小規模な店舗が増えており、地域活性化と地域住民との交流が同時に実現し地域の魅力向上につながっている。 ・道の駅での情報提供と地域内に3箇所設置した観光情報案内板により、来訪者への情報発信が図られ、地域内あるいは町内施設の回遊性が高まった。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・町内他地区との連携機能を発揮し、住民や来訪者の回遊・交流を維持できるよう、道の駅での情報発信の継続や情報の陳腐化の防止に努めると共に、町内各施設のクラスター化の強化を図る。

都市整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

~~（2）実施過程の評価~~

~~添付様式3－①　モニタリングの実施状況~~
~~添付様式3－②　住民参加プロセスの実施状況~~
~~添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況~~

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

~~（7）有識者からの意見聴取~~

~~添付様式9　有識者からの意見聴取~~

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		―	①柏が丘公園の年間利用人員 ②その他の数値目標の追加	①柏が丘公園について、集客性の高い遊具を設置する整備内容に変更となったため、目標利用人数を5,000人から10,000人に増加。 ②回遊・交流拠点や観光情報案内板の整備による町外来訪者の回遊効果を評価するため追加。
D. その他（　　）					

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した、まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園 （柏が丘公園）	—	55	駐車場・園路広場	152	駐車場・園路広場・膜型遊具・芝生すべり台	より集客性が高い設備（膜型遊具など）を増やしたことから、事業内容や事業費に変更が生じた。			令和3年度
古都及び緑地保全事業									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設 （観光情報案内板）	—	3	3基	3	3基			●	
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設 （観光交流センター（道の駅））	—	353	628.00㎡	289	556.20㎡	当初計画の事業費は概算であり、その後実施設計を行い施設面積や機能が確定したことから、事業内容や事業費に変更が生じた。		●	
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									

※　1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備促進事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※　1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	実施設計、鉄道部分、特産品販売・軽食ｺｰﾅｰ、外構、駐車場整備／道の駅	290	道の駅実施設計、鉄道部分、販売スペースなど	436	道の駅実施設計、鉄道部分、販売スペースなど	当初計画の事業費は概算であり、その後実施設計を行い施設面積や機能が確定したことから、事業内容や事業費に変更が生じた。		●	
	実施設計、フェンス・監視カメラ/柏が丘公園	3	公園実施設計、フェンス	24	公園実施設計、フェンス、監視カメラ	胆振東部地震で公園整備が2年遅延し、先行して開業した道の駅との近接工事で来場者への安全対策等のため、事業内容や事業費に変更が生じた。			令和3年度
事業活用調査	事業効果分析事業	2	社会資本整備総合交付金、事後評価実施のための調査	2	社会資本整備総合交付金、事後評価実施のための調査			●	
まちづくり活動推進事業									

※ *1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと*

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
	—							
	—							
	—							
	—							
	—							

添付様式２－①　　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標		単位	データの計測手法と評価値の求め方 （時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値 （ア）	基準年度	従前値 （イ）	基準年度	目標値 （ウ）	目標年度	数値（エ）				目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
																あり	なし
指標1	観光者の入り込み客数	人	令和元年10月～令和2年9月のゴルフ場、観光施設、イベント、宿泊施設に係る町外来訪者数を評価値とする。	—	—	424,376	H25	650,000	R2	モニタリング				モニタリング			
										事後評価	確定	●	846,384	事後評価	○		
											見込み						
指標2	柏が丘公園の年間利用人員	人	令和2年度末の工事完了に伴い、公園の供用開始が令和3年4月になるため、オープン後の遊具広場等の利用者数類推値（見込値）を評価値とする。 ※主施設への来場者が併設施設に立ち寄る割合の考え方に基づき類推	—	—	3,307	H25	10,000	H29	モニタリング				モニタリング		○	
										事後評価	確定		16,000	事後評価	○		
											見込み	●					
指標3			.							モニタリング				モニタリング			
											確定						
											見込み						
指標4										モニタリング				モニタリング			
											確定						
											見込み						

指　標	目標達成度〇△×の理由 （達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項 （指標計測上の問題点、課題等）
指標1	道の駅での通年的な集客イベントの実施が奏功したほか、道の駅そのものが目的地化したことにより町外来訪者数が大きく伸び、従来の集客施設・イベントによる交流人口と比べ、大幅に増加した。	
指標2	工事完了が令和2年度末となるため、公園の供用開始後の利用人員を推計した結果、隣接する道の駅への来場者が公園施設に立ち寄るという波及効果と遊具や広場整備による集客効果のため、目標を達成する見込みである。	令和3年度にフォローアップを行い、確定値を得る予定である。
指標3		
指標4		

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

※2　目標達成度の記入方法

〇：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）				本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	回遊効果（観光案内板設置施設の利用者数）	人	令和元年10月～令和2年9月の他の町内施設（観光情報案内板設置施設（道の駅等を除く））に係る入込数を評価値とする。	―		152,940	H25	モニタリング				観光情報案内板を設置した他の町内施設への入込数を評価し、回遊効果を明らかにするため。	
								事後評価	確定	●	175,958		
									見込み				
その他の数値指標2								モニタリング					
								事後評価	確定				
									見込み				
その他の数値指標3								モニタリング					
								事後評価	確定				
									見込み				

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・道の駅及び観光情報案内板の整備後、町内他施設への町外来訪者数が有意に増加した。
・情報発信機能により回遊行動を誘発しており、また道の駅が「回遊・交流ステーション」としての機能を発揮している。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった （理由　　）		

添付様式３－②　住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった （理由　　）		

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
町内の回遊交流施策に関わる関係部局	建設課、教育委員会、産業経済課、地域推進課 等	令和2年12月	地域推進課

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		その他指標1					
指　標　名		観光者の入り込み客数		柏が丘公園の年間利用人員		回遊効果（サテライト資源の利用者数）					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	公園（柏が丘公園）	－	道の駅のオープン時は一時的に多数の集客があるため、評価期間から外し、またコロナ禍による観光自粛の影響を考慮してもなお、予想を超える大きな集客効果があった。 キャンプを感染リスクの低いレジャーとして、人々がいち早く対応したこと、本町の施策としてキャンプ場整備を継続してきたこと、道の駅においてキャンプ場の魅力・付加価値向上に資するイベントや情報発信を行ったことが相乗効果を生み、悪条件下でも多くの集客力を維持し、交流人口の拡大と地域活性化が図られた。	◎	公園の工事完了が令和2年度末となり、利用者数の実数の計測は難しいため、隣接する道の駅への来訪者が公園に立ち寄る人数を類推し見込み値で評価したところ、目標を大きく上回る結果となった。令和元年10月～令和2年9月までの道の駅利用者数が予想を超えていることから、柏が丘公園への立ち寄りも増加すると想定される。 フォローアップとして、令和3年度の道の駅利用者数に基づき類推した公園利用者数を確定値とし、年間利用人員を評価するものとする。	－	観光情報案内板を設置した他の町内施設（道の駅等を除く）への入込客数は、基準年前後の数年間は微減傾向にあったが、評価期間内において施設整備を進めた結果、目標年次には基準年よりも入込客数が増加した。 本事業で整備した情報案内板の情報発信機能や、道の駅が最終目的地としてだけではなく町内の拠点施設的役割を発揮したことにより、他の施設への利用促進が図られ、回遊性が高まった。				
	地域生活基盤施設（観光情報案内板）	○		○		◎					
	高次都市施設（観光交流センター（道の駅））	◎		○		◎					
提案事業	地域創造支援事業（実施設計、鉄道部分、特産品販売・軽食ｺｰﾅｰ、外構、駐車場整備/道の駅）	—		—		—					
	地域創造支援事業（実施設計、フェンス・監視カメラ/柏が丘公園）	—		—		—					
	事業活用調査（事業効果分析事業）	—		—		—					
関連事業											

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	本町の回遊・交流拠点整備の締めくくりとなる道の駅の整備効果を最大限に活用し、情報発信による歴史や文化を活かした観光交流により、町内の観光資源のクラスター化を強化することで、更なる交流人口の拡大と地域活性化の向上を目指す。	柏が丘公園の利用は道の駅利用者の立ち寄りが多いことを踏まえ、町民との交流の場として維持を図る。そのためには道の駅利用者の誘導や一体的なイベントの実施など、道の駅との連携を一層強める。	観光情報案内板は多くの来訪者の目に触れる一方で、固定された内容であるため、道の駅での新規性の高い情報発信、他の回遊・交流拠点と連携した発信などを行う。		

添付様式４－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指 標 名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													
改善の方針（記入は必須）													

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
町内の回遊交流施策に関わる関係部局	建設課、教育委員会、産業経済課、地域推進課等	令和2年12月	地域推進課

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
交流人口の拡大による地域活性化が最大かつ喫緊の課題	観光入込客数の増加のみならず町内回遊の向上が図られ、また新たな小規模小売店舗が立地するなど地域の魅力向上に資する動きが見られており、地域活性化につながっている。		
行き交う人が一時的に足を留める基幹施設の不備	町内回遊の拠点となる道の駅が整備され、多くの利用者が滞在する姿が見られる。		
住民間や観光客の回遊・交流が不十分	道の駅に隣接した柏が丘公園が整備されることにより、住民と観光客の交流の場が確保される。		
分断された地域内の機能のつながりの再創造や、観光資源のクラスター化	回遊・交流の拠点施設（道の駅）整備と情報案内板設置により、町内の他の施設の利用者が同時に増加し、回遊性の向上と機能のつながり・資源のクラスター化が図られている。		
地域の特徴を発信する機能施設（アンテナショップ等）が不十分	地域の特産品を道の駅で販売することに加え、相乗効果として地域内に小規模小売店舗の立地が増え、来訪者の購買意欲を刺激し地域の活性化・賑わいづくりにつながっている。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	賑わい、来訪者と地域住民との交流、地域活性化の維持	回遊・交流拠点機能と情報発信機能の維持が不可欠である。経年で低下する新規性の効果を補うため、鉄道（SL）、宿泊（キャンプ）、食（農産品）のような地域資源について、歴史や文化を活かし物語性のある発信を続けることにより、賑わいと交流の維持を図る。	・道の駅で定期的に行っている企画・イベントの継続 ・他の回遊施設に関する情報発信の充実

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。（チェック欄）

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題（都市再生整備計画）を再確認した。
—	事業の実施過程の評価（添付様式3）を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用（添付様式４－②）を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針（添付様式４－③）を再確認した。
●	残された課題や新たな課題（添付様式５－②）を再確認した。

添付様式５－参考記述　　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式５－④　　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
													予定時期	計測方法	その他特記事項
指標１	観光者の入り込み客数	人	424,376	H25	650,000	R2	確定	●	846,384	○	あり	－	—	—	—
							見込み				なし	－			
指標２	柏が丘公園の年間利用人員	人	3,307	H25	10,000	R2	確定		16,000	○	あり	●	令和3年4月～令和4年3月	令和3年度の道の駅来訪者数から、公園の遊具広場や雪遊び広場に立ち寄る利用者数を類推する。	—
							見込み	●			なし				
指標３							確定				あり				
							見込み				なし				
指標４							確定				あり				
							見込み				なし				
指標５							確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標１	回遊効果（サテライト資源の利用者数）	人	152,940	H25			確定	●	175,958				—	—	—
							見込み								
その他の数値指標２							確定								
							見込み								
その他の数値指標３							確定								
							見込み								

添付様式６　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式６－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	令和2年12月18日～ 令和3年 1月18日	令和2年12月18～ 令和3年 1月18日	メールでの意見集約	地域推進課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	地域推進課窓口での閲覧	令和2年12月18日～ 令和3年 1月18日	令和2年12月18日～ 令和2年 1月18日	窓口での意見聴取	地域推進課

住民の意見	特になし

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員		令和2年12月	地域推進課	関係部局職員による審議	町
その他の委員	町内の回遊交流施策に関わる関係部局（建設課、教育委員会、産業経済課、地域推進課 等）				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・事後評価のプロセスについて確認された。
	成果の評価	・目標が達成されたことについて評価された。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・事業整備による効果発現要因の整理について共通認識が図られた。 ・今後、町内各地区の一体的な連携により、効果発現を持続できるよう意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・今後、町民に対して公表するものとし、町民意見の結果によっては、第2回審議会開催の要否の判断が必要になるとの意見があった。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・今後のまちづくり方策の作成にあたり、事業効果を継続させるための方策について確認された。
	フォローアップ	・令和3年度に実施されるフォローアップの手法について妥当と認められた。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、基本的な考え方と想定される事業は妥当と認められた。
その他		・特になし。

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理（添付様式5）、今後のまちづくり方策の検討（添付様式6）、評価委員会の審議（添付様式9）以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	

都市再生整備計画

追分地区（第5回変更）

北海道　勇払郡　安平町

令和2年12月17日

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	□
都市再生整備計画事業	■
まちなかウォーカブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式（1）-②

都道府県名	北海道	市町村名	安平町（アビラチョウ）	地区名	追分地区（オイワケチク）	面積	441 ha

計画期間	平成 27 年度 ～ 令和 2 年度	交付期間	平成 27 年度 ～ 令和 2 年度

目標

大目標：北海道安平町の資源を活かした回遊観光・地域間交流推進を契機とする急激な人口減少に負けない地域力の醸成
目標1：「道の駅」を核とした新たな観光交流拠点・情報発信拠点の創出による交流人口の拡大を図る
目標2：柏が丘球場の周辺を人と人がふれあう憩いの場として整備し、道の駅と一体となった地域間交流の促進及び交流人口の拡大を図る

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

■平成の大合併といわれた平成18年3月に旧追分町と旧早来町の2つが合併し、現在の安平町が誕生した。アサヒメロンや鉄道とともに歩んできたまち「追分」と、チーズや牛・馬の畜産業を中心に繁栄してきた農業のまち「早来」が一つの町になり、その資源はお互いが持っていなかった要素を補完するように存在していたが、これまではそれぞれが個別・独自に輝こうと暗中模索してきた状態が続いてきた。この背景には、「チームあびら」というスローガンのもと、一体感の醸成、地域間の住民融和に取り組むものの、多くの合併自治体の課題であろう旧町の枠組み意識が未だに根強く感じられ、心の融和、活動の連携が思うように進まない状況に問題の一つがあると捉え、町はその解消を最重要課題として据えている。

■地理的条件をみると、北海道の空の玄関である「新千歳空港」や海の玄関「苫小牧港」に至近であり、町内には北海道の東西を結ぶ「道東道追分町IC」が町の背骨として通る国道234号沿いにあり、道都札幌市と特急列車で数駅で結ばれている「JR追分駅」があるなど、陸・海・空の地理的条件に恵まれた地域である。しかしながら、観光客の往来をみると、その多くがゴルフ客に限られている現状があり、地域の資源を存分に活かしているとは言いがたい。更にゴルフ銀座と呼ばれているこの地域だが、景気の低迷による利用客数の減少によりこの1～2年で2か所のゴルフ場が休・廃業に追い込まれており、既存の観光資源にも輝きが失われつつある。

■明るい兆しもみえてきている。住民活動においては、NPO法人が誕生し、地場産品を用いた加工品生産・販売事業、コミュニティレストラン事業の展開が始まった。観光においては、雪をテーマに昨冬初めてタイからの外国人観光客の受入に成功した。また、近年注目の集まるエネルギー関連においては、町内に日本最大規模のメガソーラー施設が建設され、現在も世界最大規模の大型蓄電池施設建設プロジェクトが進行している。

■こうした状況下にある当町は、転入助成金や出生祝い金、保育料の軽減などの子育て世代への支援や民間活力によるアパート建設助成制度など、「定住人口の確保」に注力してきた。また同時にまちづくり基本条例やそれを根拠とした町民参画推進条例を制定し、「協働のまちづくり」のための仕組みを整備してきた。しかしながら、移住・定住施策は一定の成果を挙げているものの、高齢化率33%という数字にも現れている急速な自然減を上回るものとはなっておらず、平成26年4月の町政3期目のスタートを契機に、観光等による「交流人口の拡大」を併せて展開することで、人・もの・自然・エネルギーといった町の資源（文化）に力と繋がりを沸き起こし、人口減少の影響を緩和しながら、「くらしの笑顔が広がる ぬくもりと活力と躍動のまち」の実現に向けて取り組んでいる。

課題

■少子高齢化・地域経済の低迷を背景とした人口減少が進む安平町において、人口対策、住民間の融和、人・もの・自然といった資源の活性化のための一手法として、交流人口の拡大による地域活性化が最大かつ喫緊の課題である。
・交通では国道、高速道、駅、空港とのアクセスに優れ、流通面においても港や大消費地の札幌市にも近く、いずれも好条件にあるが、行き交う人が一時的に足を留める基幹施設が不備であり、住民間や観光客の回遊・交流が不十分である。
・札幌市に近く、苫小牧市及び千歳市に隣接していることから町外への依存が高く、合併後も地域内の機能のつながりが分断されたまま経年している。そのため、新たな視点・要素を加えて、地域内の機能のつながりを再創造していくことを出発点とすることが必要。人・もの・自然といった現有資源（文化）が点で存在しており、地域の活性化のためには、それらのクラスター化（ネットワーク化と相互作用化をともに実現すること）を図る必要がある。
・地域の魅力や物産などの特徴を発信する機能施設（アンテナショップ等）が十分でない。

将来ビジョン（中長期）

「心がかよい　文化が薫る　賑わいとあい（愛・会い）のあるまち　あびら」
・人や自然などあらゆるものと心を通わせ、内外の文化を理解し交流・連携しあい、地域経済や資源が潤い賑わう、出会いと愛着が生まれるまちを目指す。
・安平町総合計画後期基本計画における新たな地域産業の創出の方向性として、「クラスターステーション構想の推進と地域物産販売所の整備検討」を行うこととしている。
・平成15年に旧早来町で策定し新町においても引き継いでいる都市計画マスタープランでは、「人と街と自然が共存し、ささえあいのなかで、豊かさを実感できるまちづくり」をコンセプトとし、その整備方針の一つとして「地域資源を活かした観光・交流拠点の形成」「国道234号を主体とする沿道利用の促進」などを推進することにしている。

目標を定量化する指標

指　標	単 位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
観光者の入り込み客数	人	安平町を訪れる観光客数（まちづくり推進課集計値）	交流人口の実績をはかる指標として、その構成要素である「観光客の入り込み客数」を採用する。来町・回遊する観光客の増加により経済効果等が期待される。	424,376	平成25年度	650,000	令和2年度
柏が丘公園の年間利用人員	人	柏が丘公園の年間利用人員	人と人がふれあう憩いの場として公園整備することにより、地域住民のみならず、観光者との交流が促進され道の駅との相乗効果が期待できる。	3,307	平成25年度	10,000	令和2年度

整備方針等

様式（1）-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・整備方針1：「回遊・交流ステーション」を中核とした町の「サテライト資源」とのクラスター化 【安平町の魅力の向上とクラスター化】 回遊観光・地域間交流の中核となる施設「回遊・交流ステーション」を町内4地区に指定し、各地区においては、回遊・交流ステーションを中心として、町内の施設や牧場、温泉、レストラン、イベント、特産などをサテライト資源として指定し、クラスター化する（ネットワーク化と相互作用化をともに実現する）ことで、より有効な観光メニュー化を進め、安平町の交流人口の拡大と地域活性化を図る。 この実行にあたっては、新設等により整備する外発的発展に対して、地域内の資源(文化)や伝統的枠組みを見直すことをとおして新たな産業形態の開発・育成をはかっていく内発的発展を重視し、現有資源を磨き上げクラスター化し、地域内の機能のつながりを再創造していくことを出発点とする。 （整備方針1に関する補足説明については、以下“その他”に記載）	高次都市施設（観光交流センター（道の駅）） 公園（柏が丘公園） 地域生活基盤施設（観光情報案内板） 事業活用調査（事業効果分析事業）
整備方針2： 歴史や文化を活かした観光交流を図る ・地域住民と観光者（来訪者）との交流促進や町の魅力を発信する基地として国道234号及び道東自動車道追分町ICにほど近く、安平町の北の玄関口である追分地区に「休憩・情報発信・地域の連携機能」を兼ね備えた観光交流センター「道の駅」を整備する。追分地区はかつて「鉄道のまち」として栄え、現存する蒸気機関車「D51 320号機」は地域のSL保存協力会が整備を行っているため、全国の鉄道ファンが見学に来るほど保存状態も良好であり、追分地区の歴史や文化を継承する観光交流センターの「シンボル」として設置し、観光者（来訪者）に追分地区の歴史や文化を紹介する。 ・観光交流センターに隣接して地域住民の憩いの場として「公園」を整備する。また、観光交流センターに隣接することで観光者（来訪者）が回遊し、長時間滞在できる空間を演出し、相乗効果を発揮することが期待できる。 ・観光情報案内板を設置し、地域資源である「サテライト施設等」を回遊させる。	高次都市施設（観光交流センター（道の駅）） 公園（柏が丘公園） 地域生活基盤施設（観光情報案内板）

その他

〈整備方針1の補足説明〉

■追分ゾーン

道東道追分町IC、特急が停車するJR追分駅を有し、道都札幌・新千歳空港も近いという利便が良い地域でありながら、観光・交流の中核となる施設がない。新たな中核施設として、地域変化の象徴である「SL」「鉄道」による魅力化・差別化を図った道の駅を建設し、他の3地域に整備する回遊・交流ステーションを統括する安平町の総合観光ステーションに位置づけ、道北・道東との中継地として観光客を取り込む施設とする。

さらに道の駅に隣接する柏が丘球場周辺における公園整備を行うことで、道の駅の整備効果をより高めるとともに、観光客や地域住民の憩いの場とする。

■安平ゾーン

みずほ館での農作業体験事業やコミュニティレストラン、みずほダムでのカヌー体験など、NPOによる新しい風が吹く地域。国道234号沿いに整備したあびら交流センターは、それらを結び回遊させるハブ機能を持つとともに、周辺農家による農産品直売所として近隣市町住民を誘客する中核を担う。

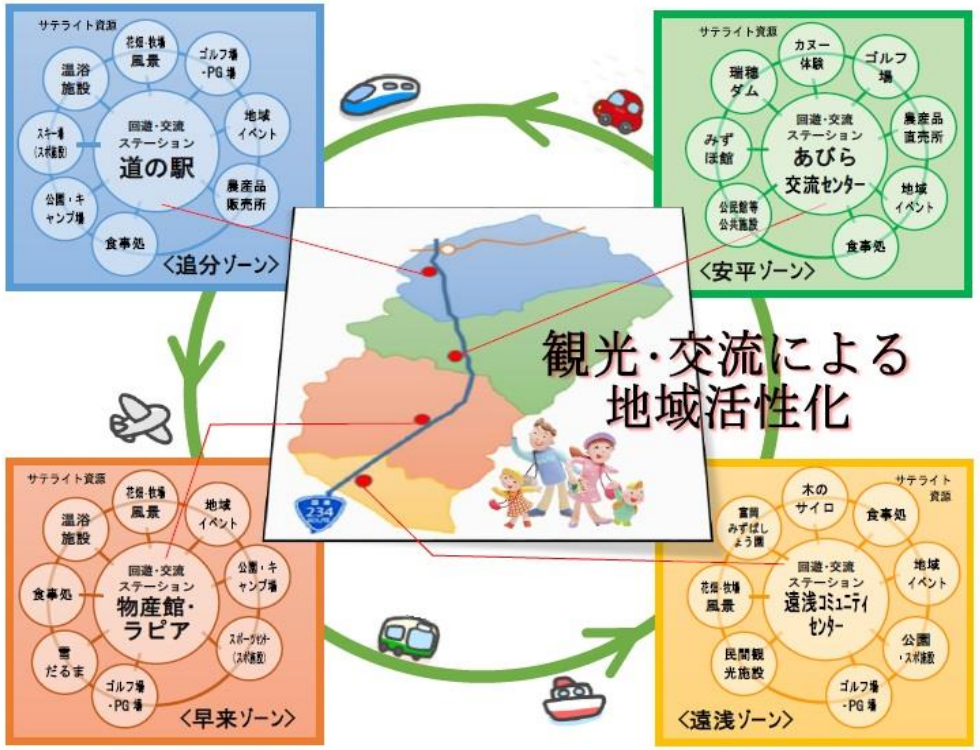
■早来ゾーン

多くのゴルフ場を有する地域であり、年間30万人が訪れる観光客の多くをゴルフ場客が占める。しかし、ゴルフ客を町内の物産館やレストランへの誘客に結びつけることができていないことが課題であり、物産館及びラピアを中核施設に据えた観光・交流セットメニューをこれまで以上に充実させ展開していく。

■遠浅ゾーン

チーズ専門工場発祥の地であり、その歴史が今も継承されている畜産地域。全国的に有名な軽種馬牧場には競馬ファンが多数訪れ、国内最大級のメガソーラー発電所が観光スポットとなる可能性を秘めている。 地域住民の融和と自治の核となるコミュニティ施設機能に、観光者への情報ステーションとしての役割を付加し、遠浅コミュニティセンターを新設整備する。

安平町回遊・交流ステーション形成概念図



目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項（都市再生整備計画事業）

様式（1）-④-2

交付対象事業費	906	交付限度額	246.6	国費率	0.272

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
道路															
公園		柏が丘公園	安平町	直	ー	H29	R2	H29	R2	160	152	152		152	ー
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設		観光情報案内板	安平町	直	ー	H30	H30	H30	H30	3	3	3		3	ー
高質空間形成施設															
高次都市施設	地域交流センター														
	観光交流センター	観光交流センター（道の駅）	安平町	直	ー	H27	H30	H27	H30	324	289	289		289	ー
	まちおこしセンター														
	子育て世代活動支援センター														
	複合交通センター														
既存建造物活用事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
バリアフリー環境整備事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地総合整備事業															
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										487	444	444	0	444	

統合したB／Cを記入してください

…A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業	実施設計、鉄道部分、特産品販売・軽食コーナー、外構、駐車場整備/道の駅	ー	安平町	直	ー	H27	H30	H27	H30	488	436	436		436
	実施設計、フェンス・監視カメラ/柏が丘公園	ー	安平町	直	ー	H29	R2	H29	R2	24	24	24		24
事業活用調査	事業効果分析事業		安平町	直	ー	H31	R2	H31	R2	2	2	2		2
まちづくり活動推進事業														
合計										514	462	462	0	462
													合計(A+B)	906

…B

（参考）都市構造再編集中支援事業関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに〇）直轄	補助	地方単独	民間単独	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
合計											0

（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに〇）直轄	補助	地方単独	民間単独	事業期間 開始年度	終了年度	全体事業費
合計											0